
■ さろん | Mail News 2018/10/17 | #124 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。

会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

====Vol.124 2018年10月17日(水)====

さ | ろ | ん |

— | — | — |

M | a | i | l | N | e | w | s |

— | — | — | — | — | — | — |

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

INDEX

- | 【1】 ふくろう広場 (会からのお知らせ)
 - | 【2】 (10/30) ゆる秋カフェ 「秋の夜長と憩いの珈琲」
 - | 【3】 コラム/エッセイ
 - ◇ 『懐かしい思い出について思う』
 - | 【ご案内】 《さろんラボ》
 - | 【4】 コトバをハーバリウムする
 - | 【5】 さろんアーカイブの遊歩道
 - | 編集後記
-

CONTENTS

【1】 会からのお知らせ

ふくろう広場

1) 特別催事のご案内

<http://salon-public.com/>

●【さろんコラボ哲学「怒り+マンガ」】

ブラジル人マンガ家、モクタン・アンジェロ氏とのコラボ哲学カフェを開催します。
古代ローマの哲学者セネカの『怒りについて』を基にした氏の最新刊
『レオノーラの猛獣刑』を題材に、「怒り」についてマンガを入口として、
考えたり話しあったりしてみます。

日 時：2018年11月23日（金・祝）15:00-18:00

テーマ：「怒り+マンガ」

進 行：芹沢+堀越 feat.モクタン・アンジェロ氏

会 場：カフェミヤマ渋谷公園通り店2号店

参加費：1500円程度（予価）

定 員：12名程度

●【さろん哲学 ★第100回記念特別回★】

12/15（土）15:00 - 19:00

担 当：野田

100回記念例会@中目黒

さろん哲学（例会）もついに大台です。

毎月1回のシンプルな積み重ねをあらためて言祝ぎたいと思います。

例会後、「Good Neighbors Party（アフターパーティ）」を同会場で実施します。

●【さろんクリスマスパーティー2018】

12/22（土）午後 - 夕方

実行委員長：堀越

アレですね。毎年恒例の。クリパ。

初めての方も、数年ぶりの方も、とことん一緒になごみましょう。

今年も、実行委員長が全力投入です。

2) さろんのスタッフ推薦本の読書会

現在開催中の朝さろん〈リクエストシーズン〉。

10月と11月は、さろんのスタッフが推薦&進行を担当します。

●10/21（日）9:05 - 12:00『君の臓腑をたべたい』（住野よる）

進 行：堀越（さろん）さん

<http://www.futabasha.co.jp/introduction/2015/kimisui/>

推薦者：堀越さんからの推薦コメント

「不治の病を患う女子高校生と彼女に巻き込まれていく男子高校生のふたり。だが、これは、物語の先が容易に読めるような不治の病にまつわる予定調和の小説では決してない。どうすれば自分を見つけれられるか。魅力を持てるようになるか。人々との出会いは運命か意思か。死とどう向き合

えばいいか。生きるとは一体どういうことなのか。この小説は、ふたりが互いを敬いながら過ごす大切な時間を通じて、私達が生きていく上でとても大切で、根源的な問いを私達に投げかける。」

●11/11（日）9:05 - 12:00 『神様のいない日本シリーズ』（田中慎弥）

進行：楠本（さろん）さん

<https://books.bunshun.jp/ud/book/num/9784167835019>

推薦者・楠本さんからの推薦コメント

「人と人の関係は往々にして一言で言い切れるほど単純なものではありません。私の元から去っていったあの人は自分にとってどんな存在なのでしょう。父とは。母とは。家族とは。野球チームでの上級生との喧嘩がきっかけで引き籠る息子に、父はドア越しに語りかけます。幼いころに目の前から姿を消した父のこと。野球をやらなかったこと。大好きな彼女、息子にとっての母との色鮮やかな思い出。語り続けても結論は出ません。しかしそこには不確かさを受け入れることで得られる確かな手触りがあります。家族の在り方が問われる現代に新たな家族像を提示する珠玉の一冊です。」

ふだんは「さろん哲学」や「さろん Remix」を担当している二人が、ここではどんな貌を見せてくれるのか。乞うご期待です。ぜひ遊びにいらして、目撃者になってください。

【2】ゆるカフェ

(10/30) ゆる秋カフェ

「秋の夜長と憩いの珈琲」

通称『ゆるカフェ』。

秋の夜長の月灯りと虫の音。まっすぐ家路に着くのが惜しいそんな夜に、一杯の珈琲をお供に憩いと寛ぎの時間を静かに過ごしませんか。

10月30日（火）19:30 オープンです。

今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。

ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで ※最少挙行人数3名

10月30日（火）19:30 - 21:30頃

代々木近辺の喫茶店（申込者にご案内）

参加費100円（別途、注文した飲食費実費をお支払いください）

お申込み：salontetsugaku@gmail.com

（幹事：せりざわ）

▽【懐かしい思い出について思う】

一生

僕が彼女を初めて知ったのは、高校2年のクラスで一緒になった春のことである。だが頭から離れない彼女との鮮明な思い出はその年の文化祭前後のことであった。既に難しくなりつつあった英文法の授業では、互いの席が隣か前後の関係にあったように思う。授業時間に、確か二百頁程度はある英文法の問題集が全員へ配布され、先生からは「この問題集を授業の課題とし、今後は授業で問題を解いていく」という説明があった。確か「中級問題集」という名称であったが、中身をパラパラとめくるとどの問題も解いたことがなく答えが分からない。休憩時間に問題集をめくりながら彼女は「一冊全問を一週間のできるかな？」と僕に訊いてきた。『こいつは突然何を言うのか?』という衝撃を僕は受けた。僕は即座に「無理だ」と応えたが、彼女は「こんなのはやる気の問題だよ。絶対できる」と言い張り「嫌なら私一人でやる」とまで言い切った。結局僕は彼女の強引な提案に草舟のように根負けをし、その無謀な挑戦を受けて問題集一冊を一週間解くはめとなった。

お陰でその週末土日は睡眠時間もろくに取らないまま食事と風呂以外はぶっ続けで部屋に籠って、問題を解き続けた。親からは「どうかしたか?」と訊かれたが面倒なので答えをはぐらかした。次の英文法の授業で出来栄を彼女と確認すると、僕が後回しにした十数問をやり残してしまったのに対し、彼女は全問題をやり遂げていて「凄い奴だ」と尊敬し直した。その年僕らのクラスの文化祭企画は映画制作・上映であったので、当日までは台本作りや撮影に忙しく、特に終盤編集は日程に追われて友人宅で何日も合宿をする程に多忙を極めたが、半面当日はやる事が少なく空き時間が多かった記憶がある。一方で、どういういきさつであったかはもはや定かでないが、彼女と共に自校の文化祭を見て回る際に覚えた何か胸の弾みを強く憶えている。長時間で過酷であった映画制作の強烈な思い出より文化祭を二人で見回った思い出の方が懐かしい。これらが彼女との思い出の全てである。——“加田零”

これは筆者の友人から聞いた話である。友人が心の中でどのように彼女のことを思っていたかは判然とはしない。字面から、彼女との思い出を懐かしく思う様子が読み取れるだけである。読者ならこの二人の関係を何と呼ぶであろうか。哲学者の鷺田清一氏は語る*1。「他者をカテゴリーにおいて呼ぶのではなく、名で呼ぶこと、それが他者を他者として迎え入れるということである。他者に対しておのれを劈くということである」。カテゴリーで他者を呼ぶことは、関係を理解する上で便利で一般的である。反面その関係が内包するかけがえのなさや他者を敬う気持ちが薄れるかもしれない。友人が彼女との関係を尊く、かけがえがないと自覚していたらカテゴリーで呼びたくはないかもしれない。さて。今月で弊会は、八周年を迎える。「知っている哲学カフェ団体」というカテゴリーを超えて、これまでの参加者や読者に迎え入れてもらえたのであろうか。音信不通となったあの人達にもう一度会いたい。交信したい。その想いを叫びたい。

*1：鷺田清一著：『「聴く」ことの力』

【ご案内】

《さろんラボ》

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【堀越】

- ・哲学カフェを自分で開きたいけど、どうしたらいいかわからない…。
- ・読書会を自分で主催したいけど、自信がなくて…。

そんなときこそ「さろんラボ」がお力になります。さろんラボでは、みなさまの「やってみたい」を核に、さろんを触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場です。

ご参考までに、このラボからは、さろんの参加者の手で、以下の二つの活動がうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ・テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心事やご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。
みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：堀越)

【4】

コトバをハーバリウムする #35 (ネムノキ)

歌のコトバから

What started as a whisper,
Slowly turned in to a scream.
Searching for an answer
Where the question is unseen.

囁きで始まったものが
次第に叫びへと変わる

答えを求めて
問いがまだ見過ごされている間にも

——Ben Harper 『Amen Omen』 (作詞 : Ben Harper)

歌のコトバから

What we don't know keeps tha contracts alive an movin'
They don't gotta burn tha books they just remove 'em

俺たちの無知が、拘束を生む契約を存続させる。
焚書の必要もない。奴等はただ、本をどこかに片付けるだけだ。

——Rage Against The Machine 『Bulls On Parade』 (作詞 : Rage Against The Machine)

【 5 】

さろんアーカイブの遊歩道 #29 (楠)

カテゴリ : 【さろん哲学 議事録】 第28回

テーマ : 「男らしさ、について考える」

開催日 : 2012年12月19日

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/salon_giji_28.pdf

個人的にとっても嫌なテーマである。男らしさについて考える時点で男らしさという概念の有効性を認めているようで、非常に腹立たしい。

私的な心情は措いておくとして、この回で出た意見に沿って考えると「らしさ」とは「本来の姿をしていること」「無理をしない、自然の姿をしていること」である。そして男らしさとは「権力」や「攻撃力」を用いて「弱いもの(女性?)を守る強さ」となる。つまり男性は肉体的・社会的な弱者である女性を守るのが本来の姿、ということになるだろうか。

価値観の多様性が叫ばれる現代において「男らしさ」という概念はいずれ廃れていくのかもしれない。しかし、生物学的に大多数の人間が男と女に分かれて生を受ける以上、己の性から完全に自由になることは難しいし、それを望む人も多くは無いただろう。僕がスカート履かないのは、男としての「私」を捨て去れないからに他ならない。

友人である前に、男と女である前に、対等な個人として相手と向き合うことは、現実的には非常に難しい。人は会社や家族というコミュニティに於いて与えられた役割や性別に沿って振舞おうとしてしまう生き物である。翻って僕は哲学カフェにおいて他の参加者に対して対等な個人として向き合っているだろうか。疑問は尽きない。

編集後記

メールニュース第124号をお届けします。

梟ですこんにちは。ホウ。

はやいもので神無月も半ばを過ぎました。神様会談はぶじにおわたったのでしょうか。

さて、今年も年の瀬の足音が近づいてきています。

それに合わせるかのように、陽気もだんだん冬に向かっていきますね。

羽織るものが増えたり、厚くなったり。首元に巻いたり、とっくりセーターを出したり。

なるべくちいさな、ひとつでもおおくの変化に、敏感でいたいものです。

変化のなかこそ、思考がもっとも鍛えられる契機の一つではないでしょうか。

噛めば月のまばたきに似た音のするアルミニウムの硬貨を愛す（石川 美南）

それではまた次号でお会いしましょう。ホウ。

編集: (梟)

さろん | Mail News 2018/10/17

⇒次号 (11月1日頃発行予定)

さろん Mail News 第124号 / 2018年10月17日発行【読み物号】

編集・発行: さろん

salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

-
- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
 - ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
 - ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku/>
 - ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
 - ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
「さろん哲学」Webサイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>

「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>

「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>



"copyright (c) 2011-2018 さろん. All rights reserved."
